



故郷



～学校と家庭・地域との連携を深めながら～

文責：学校長 須山 千才

修学旅行に行ってきました

4月12～14日に3学年の修学旅行があり、奈良・京都方面に2泊3日の日程で行ってきました。外国人観光客の多さに、多少驚いたようですが、歴史的な建造物や文化に触れる中で、様々な体験をすることができました。親元を離れての宿泊学習は、生徒を一回りも二回りも大きく成長させてくれたように感じています。

↓法隆寺

↓清水寺

↓北野天満宮



小中学校の交流が進んでいます

小中学校の交流活動では、中学2年生が主体となって交流ゲームを行ったり、縦割り班で草取りを行ったりしました。交流ゲームでは、2年生が、臨機応変に動いたり声をかけたりして、上手に進行してくれました。同じ豊田地区の仲間として、小学生の見本となるような生活を心がけることが、自分自身の成長につながるよう期待しています。

↓交流ゲーム

↓草取り



職場体験学習がありました

6月4日に2学年の職業体験学習が行われました。また、翌5日にはオリオングループホールディングス株式会社の青木十郎様にお越しいただき、キャリア講演会を行なっていただきました。今回の体験は、7月7～8日に行われる職場体験学習の事前学習として、豊田地区の事業主さんの協力のもとに行われました。働くことの大変さと責任を感じ取ることができたようです。



道の駅ふるさと豊田



デイサービスセンターさくら



とよた保育園

校長講話～若かりし頃の高野辰之～

高野辰之は「故郷」や「春の小川」などの唱歌を作詞した人として知られています。生家（写真1）が永田地区にあります。地元の永江学校初等科で学んだ辰之は下水内高等小学校に進学します。学校は飯山にあったので片道2時間の道のりを歩いて通いました。辰之が歩いた道（旧道）を歩いてみると、田園風景（写真2）が広がっていました。この道を通いながら眺めた景色の思い出が、のちの「朧月夜」や「紅葉」の歌詞に結び付いたのかもしれないと考えると感慨深いものがありました。当時の高等小学校は現在の飯山小学校の場所にありました。高等小学校を卒業した辰之は、地元の永田尋常小学校で代用教員として勤めたのち、長野県師範学校（現在の信州大学教育学部）に入学し、教員免許を取得します。正規教員として最初の赴任先は、現在の飯山市役所の場所に新築された、母校の下水内高等小学校（写真3）でした。毎日、自宅から歩いて通うわけにはいかないので、職場近くの真宗寺に下宿をしました。

その真宗寺（写真4）に行ってみました。真宗寺は昭和27年の「飯山大火」の際に、ほとんどの建物が燃えてしまいました。残っているのは、経典などを保管しておく六角堂のみです。寺の入り口に石碑（写真5）がありました。そこには「小説破戒 蓮華寺」と彫られています。その横には「島崎藤村『破戒』文学碑」と書かれた解説が立っています。藤村は辰之とほぼ同じ時代を生きた、長野県出身の小説家です。藤村は小説『破戒』の執筆取材のため何回か飯山を訪れました。真宗寺は小説の中に出てくる蓮華寺のモデルです。小説の中に出てくる瀬川丑松（うしまつ）が下宿をしていた寺です。書店で『破戒』を買って読みました。小説の書き出しはこうです。「蓮華寺では下宿を兼ねた。瀬川丑松が急に宿がえを思い立って、借りることにした部屋というのは、その庫裏続きにある二階角のところ。（以下略）」本の裏表紙に記された書評には次のように書かれていました。

「明治後期、部落出身の教員瀬川丑松は父親から身分を隠せと堅く戒められたにもかかわらず、同じ宿命を持つ解放運動家、猪子蓮太郎の壮絶な死に心を動かされ、ついに父の戒めを破ってしまう。（以下略）」藤村が初めて世に出した小説です。皆さんも是非読んでみてください。この小説が4年前に映画化されました。丑松役は俳優の間宮祥太郎さんです。とても良い映画ですので機会があれば皆さんも是非ご覧ください。

今日から人権教育月間が始まります。皆さんも、この機会に各クラスで「人権」や「差別」について考えてみてください。

足元を見ると今まで知らなかったことが見えてきます。皆さんも、なんでだろう？と思ったことを調べてみてください。



写真 1



写真 2

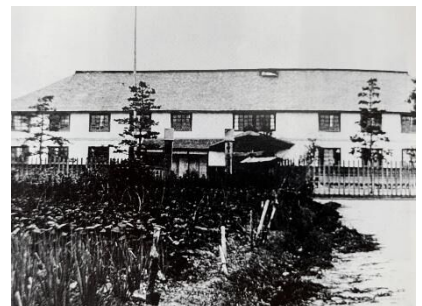


写真 3



写真 4



写真 5